

## 東京学芸大学「現代GP」プロジェクト

持続可能な社会づくりのための環境学習活動  
～多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開～



多摩川エコモーショーン 第23回 連続公開講演会 

# 自然との共生

## ～ブラジル弓場農場を実例として～

劇場づくりと演劇を通じて地域のきずなと文化を育む市民団体として、小金井市を拠点に活動するNPO 現代座。  
今回は、この現代座の木村快さんをお迎えして、4回連続の「持続可能な開発のための教育論」講座、題して、「自然との共生：ブラジルの弓場農場を実例として」を開きます。  
学芸大生はもとより、地域のみなさまも、どうぞご参加ください。

### ■講演趣旨■

地球環境の危機が叫ばれる今日。将来の世代のことをよく考えて現代の世代の必要を満たす「持続可能な開発」という考えが注目され、国内外でさまざまな活動が行われています。

教育とのかかわりにおいても、2005年から2014年は「国連持続可能な開発のための教育の10年」として定められ、国際的な協同取組みが進められています。

連続講座で取り上げる弓場（ユバ）農場は、1935年にブラジル・アリアンサ移住地の村おこしのために若者たちが設立した協同農場です。当初から営利的な継続を望まず、「祈ること、耕すこと、芸術活動を大事にすること」をモットーにして活動してきました。

日本人が当たり前だと思っていた目先の合理主義が生命力を失い、逆に非合理と見られていた共生思想が、今、注目を集めています。講座では、協同農場を持続させた秘密を探り、参加者の皆さんと共に考えます。

● **と き** 2008年 12月 15日（月）、22日（月）  
2009年 1月 5日（月）、19日（月）  
全日 12:50 ～ 14:20（3限）

● **ところ** 東京学芸大学環境教育実践施設多目的室  
（正門より徒歩5分／地図裏面）

● **参加費** 無料

● **定員** 50名（会場の都合上、できるだけ事前にお申し込みの上お越しください。  
申込み方法は裏面をご覧ください。）